

大槌町教育委員会「チーム大槌“ふるさと科”推進事業」の成果と課題(岩手県大槌町)

取組事業

チーム大槌「ふるさと科」推進事業

活動実施 場所

大槌学園（義務教育学校）
吉里吉里学園小学部
吉里吉里学園中学部

取組概要

【チーム大槌「ふるさと科」推進事業】

東日本大震災津波から6年経つが、大槌町では24%（H28.6月現在）の児童生徒が仮設住宅で生活し、依然として心のケアが必要である。その積極的な対応として、地域人財の活用を図りながら、心を耕す豊かな体験学習を実現・充実させる。

◎学校支援地域コーディネーターの配置・活用

地域人財と学校とを円滑につなぎ、大槌町独自の学習領域「ふるさと科」の充実を図り、地域学校協働活動をいっそう推進する。

◎「ふるさと科」に対する理解の促進

地域ボランティアの参加人数を増やすとともに、研修会等を実施する。

◎「学校支援地域カレンダー」の作成

町内全ての学校行事を記載したカレンダーを配布し、情報共有することで、大槌町の子供達の成長を皆で見守る意識の向上を図る。



「ふるさと科」授業
(自然のめぐみ)



「ふるさと科」授業
(郷土料理づくり)

事業成果

【チーム大槌「ふるさと科」推進事業】

- ・学校の担当者教員が代わっても、学校支援地域コーディネーターを配置・活用することにより、地域ボランティアとの連携・協働が円滑に進められ、「ふるさと科」が滞りなく実施できている。特に、9月に本校舎が完成した大槌学園には「地域学校協働本部」の拠点となる「井戸端会議室」が設置され、「地域に開かれた学校」の実現がいっそう推進されている。
- ・地域ボランティアの参加人数は、延べ32人（9月現在）。昨年度同月は34人であり、例年並みに事業を推進することができている。
- ・8月には研修会を開催し、37名が参加した。そのうち、地域住民は22名。秋田県由利本荘市教育長の講演等により「ふるさと科」の理解を深められた。
- ・「学校支援地域カレンダー」で家庭・地域住民が児童生徒の放課後等の動向を明確に把握できるようになり、子供達を皆で見守る体制づくりに役立った。

課題や今後の取組

（課題）

- ・目標に対する子どもの成長した姿や地域ボランティアの意識の変容等をしっかり見取り、年間指導計画を見直しながら、より充実した「ふるさと科」を実施する。
 - ・学校支援地域コーディネーターの後継者等の育成を図る。
- #### （今後の取組）
- ・町教委によるアンケートの実施
「ふるさと科」への満足度（好き）
心のケア（自己肯定感）

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

大槌町教育委員会「学校支援活動事業」の成果と課題(岩手県大槌町)

取組事業

学校支援活動事業

活動実施 場所

大槌学園(義務教育学校)
吉里吉里学園小学部
各学園通学路

取組概要

【学校支援活動事業】

大槌町では復興に向けて主要道路工事が本格化しているが、地域コミュニティが再生しておらず、児童生徒の登下校時の安全を確実に見守る体制を構築する。また、学習環境が十分に改善されない中、児童生徒の学力を保障するため、子供と教員がともに授業のあり方について学ぶ機会を設定する。

◎保安員の配置

授業実施日の“6:30~8:30”及び“15:00~17:00”の計4時間 ※場所により若干違いあり
交通量の多い交差点や店舗前等、特に危険と思われる14カ所に立ち、交通安全指導を実施する。

◎児童生徒への実際の授業の実施

モデル授業の実施及び事後研究会等により、児童生徒の学力保障と教員の指導力向上を図る。

外国語活動に係る授業及び研修会： 6月 大槌学園(5年生)、吉里吉里学園小学部(5年生)

11月 大槌学園(5年生)、吉里吉里学園小学部(6年生)

数学に係る授業及び研修会： 11月 大槌学園(7年生)



保安員による
登下校の見守り



秋田県東成瀬村教員
による授業

事業成果

【学校支援活動事業】

- ・保安員の配置により、昨年度から登下校時の事故発生件数“0件”を継続できている。
- ・保安員が記述する日記を学園と共有し、児童生徒の安全に関して気になった行動等の改善を図ることができた。
- ・6月、11月には関西大初等部教諭による外国語活動の授業を実施した。特に、インターネットを活用した大阪府の児童との英会話にはどの子も積極的に取り組み、目標とする英語表現に慣れ親しむことができた。
- ・11月、秋田県東成瀬村中教諭による数学の授業を実施した。生徒は積極的に自分の考えを表現する大切さやその方法を学んだ。教員は授業改善を図る上で、教材研究の方法や一単位時間の指導過程のあり方について学ぶことができた。

課題や今後の取組

(課題)

- ・今後もしばらくの間、復興工事は続くため、継続して保安員を配置し、児童生徒の登下校時の安全を確保する必要がある。
 - ・学力調査の特性を十分に把握し、採用の見直しを図りながら、授業改善と教師の指導力向上が確かに図られているか分析する。
- #### (今後の取組)
- ・学力調査による学習内容の定着度合いの検証